

高等学校におけるキャリア教育の実態調査

A Survey of Attitude of the Career Education in the Senior High School

戸田 昭直*

1 はじめに

産業構造の変化や雇用の流動化など社会の大きな変化の中で、フリーター、無業者が200万人を超え、新規高卒者の約半数が就職後5年以内に離職するなど、学校から社会・職業への移行が必ずしもうまくいっていない。離職しても次の仕事をみつけて働くことができるために必要な基礎的・汎用的能力の明確化、発達段階（初等中等教育、高等教育）に応じた体系的なキャリア教育の在り方について関心が高まっている。

文部科学省においては、初等中等教育におけるキャリア教育の在り方について、平成16年1月に「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」を公表した。この中で、各学校段階を通じた組織的・系統的なキャリア教育を一層推進することが提言され、この提言等も踏まえて「新キャリア教育プラン推進事業」、「キャリア教育実践プロジェクト」を実施してきた。

そして、初等中等教育の最終段階である高等学校、とりわけ高等学校の7割を占める普通科におけるキャリア教育の在り方について具体的な検討を行う必要から平成19年度から3年間の研究として、「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究（文部科学省委嘱事業）」が行われることとなった⁽¹⁾。

静岡県では、県立熱海高等学校、県立浜北西高等学校、県立湖西高等学校の3校が研究指定校となった。調査研究のねらいは、①高校と社会との接続の課題として、高校普通科卒業者の進路を大別すれば、専修学校、短大や大学等の上級学校進学、就職などであるが、一時的な仕事に就いた者や進学も就職もしなかった者も存在する。高等学校卒業時に就職・進学しない者、中途退学、不登校等の状況にある者等への対応をどのようにするのかという高校と社会との接続の課題について明らかにすること、②新規卒業就職者の早期離職等の課題として、新規卒業就職者が早期離職をする問題（「7・5・3現象」）があるが、早期離職をした場合、その後も単純労働を繰り返す傾向があるので専門的な能力を身につけることが難しい状況に陥りやすいという問題への対応である⁽²⁾。

本研究は、上記の状況をふまえて本学現代コミュニケーション学部現代コミュニケーション学科3年に在籍する学生（「キャリアデザインⅢ」の受講学生）が高等学校で経験し

* 浜松学院大学（キャリア教育）

たキャリア教育の実態を明らかにする目的で実施した「高等学校におけるキャリア教育の実態調査」の結果について報告する。

2 アンケート調査の概要

2-1 調査目的

調査目的は、高校在学中に受けた進路学習及び指導の内容と評価の特徴を出身高等学校の種別（①大学進学をする生徒がほとんど、②大学、専門学校、就職と進路先がさまざま、③就職が一番多く、一部進学者がいる（図表1参照））によるクロス集計によって明らかにする。

2-2 調査方法

- ①調査名は「高等学校在学中に受けた進路学習及び指導と評価についてのアンケート」
- ②調査期日は平成22年4月14日（水）
- ③調査対象は、現代コミュニケーション学部の「キャリアデザインⅢ（前期、選択）」の受講学生34名（現代コミュニケーション学部3年生で一般企業への就職を希望している学生）。
- ④調査項目は、「性別」、「出身高等学校の種別」（大学進学をする生徒がほとんど、大学、専門学校、就職と進路先がさまざま、就職が一番多く、一部進学者がいる）、高校在学中に受けた進路学習及び指導の内容と評価に関する13項目」（資料（1）アンケート調査票参照）である。
- ⑤集計方法 単純集計、クロス集計
「大変役に立った」と「やや役に立った」と回答したものをグループA、「あまり役に立たなかった」と「役に立たなかった」と回答したものをグループBとした（資料（2）：アンケート集計表参照）。
- ⑥集計結果 回答者数 34名

3 アンケート集計方法と調査結果の考察

3-1 アンケート調査結果の考察

アンケート回答者の属性は男子（17, 50.0%）、女子（17, 50.0%）であった。

出身高等学校の種別では、①大学進学をする生徒がほとんど（7, 20.6%）、②大学、専門学校、就職と進路先がさまざま（20, 58.8%）、③就職が一番多く、一部進学者がいる（7, 20.6%）であった。

図表 1

出身高等学校の種別

ア：大学進学をする生徒がほとんど	7名	20.6%
イ：大学、専門学校、就職と進路先がさまざま	20名	58.8%
ウ：就職が一番多く、一部進学者がいる	7名	20.6%

3-2

高校在学中に受けた進路学習及び指導の内容と評価の特徴は次のとおりである。

①進路選択の考え方や方法

高校在学中に受けた進路選択の考え方や方法などの進路指導及び指導についてどのように評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者は「やや役に立った」(6, 85.7%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」の回答者は「やや役に立った」(14, 70.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回答者は「やや役に立った」(3, 42.9%)であった。全体としても評価が高かったが、大学進学のための受験指導の中心が進路選択の考え方や方法と関わりが深い結果と考えられる。

②進路情報の入手方法

高校在学中に受けた進路情報の入手方法についての進路指導及び指導についてどのように評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者は「やや役に立った」(6, 85.7%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」の回答者は「やや役に立った」(14, 70.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回答者は「やや役に立った」(3, 42.9%)であった。全体としても評価が高かったが、進路情報の入手方法は大学進学のための重要なテーマであることが原因と考えられる。

③希望する進路の実現性

高校在学中に受けた希望する進路の実現性に関する進路指導及び指導についてどのように評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者は「やや役に立った」(3, 42.9%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」の回答者は「あまり役に立たなかった」(9, 45.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回答者は「やや役に立った」(3, 42.9%)、「あまり役に立たなかった」(3, 42.9%)であった。「ア」で「グループA」(5, 71.43%)が高い結果となったが、大学進学という目標を達成する過程で必然的に直面する課題であることがこの結果の原因と思われる。

④産業や職業の種類

高校在学中に受けた産業や職業の種類に関する進路指導及び指導についてどのように評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者は「やや役に立った」(2, 28.6%)、「あまり役に立たなかった」(2, 28.6%)、「大学、専門学校、

就職と進路先がさまざま」の回答者は「やや役に立った」(8, 40.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回答者は「大変役に立った」(3, 42.9%)であった。

「イ」で「グループB」(12, 60.00%)が低い結果となったが、大学、専門学校、就職という多様な目的が混在しているので十分な対応ができにくいことが原因と思われる。

⑤自分の個性や適性

高校在学中に受けた自分の個性や適性に関する進路指導及び指導についてどのように評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者は「大変役に立った」(2, 28.6%)、「あまり役に立たなかった」(2, 28.6%)、「経験はない」(2, 28.6%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」の回答者は「やや役に立った」(8, 40.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回答者は「大変役に立った」(3, 42.9%)であった。「ア」、「イ」、「ウ」の「グループA」の回答は同程度であった。どのような自分の個性や適性に関するアセスメントを利用しているのかさらに調査することが必要である。

⑥将来の生き方、人生設計

高校在学中に受けた将来の生き方、人生設計に関する進路指導及び指導についてどのように評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者は「やや役に立った」(5, 71.4%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」の回答者は「やや役に立った」(8, 40.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回答者は「あまり役に立たなかった」(2, 28.6%)であった。「ア」、「イ」の「グループA」の回答は高く、「ウ」のそれは低かった。具体的にどのような授業内容で行われているのか調査することが必要である。

⑦社会人に必要なマナー

高校在学中に受けた社会人に必要なマナーに関する進路指導及び指導についてどのように評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者は「大変役に立った」(3, 43.9%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」の回答者は「やや役に立った」(10, 50.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回答者は「大変役に立った」(3, 43.9%)、「やや役に立った」(3, 43.9%)であった。外部講師を招聘してのマナー教育は進路学習のメニューのひとつとして行う高等学校が多いようである。

⑧経済の動きを理解する

高校在学中に受けた経済の動きを理解することに関する進路指導及び指導についてどのように評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者は「やや役に立った」(2, 28.6%)、「あまり役に立たなかった」(2, 28.6%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」の回答者は「あまり役に立たなかった」(8, 40.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回答者は「あまり役に立たなかった」

(3, 42.9%)であった。経済の動きを理解する学習内容は社会に関する教科(「現代社会」、
「公民」など)であるが、進路指導の観点(職業の理解や職業選択の考え方)から学習する
機会は少ないといえる。

⑨ 仕事の中身を理解する

高校在学中に受けた仕事の中身を理解することに関する進路指導及び指導についてどの
ように評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者
は「やや役に立った」(3, 43.9%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」の回
答者は「あまり役に立たなかった」(7, 35.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」
の回答者は「あまり役に立たなかった」(3, 42.9%)であった。大学進学を目的とした
高等学校では、具体的な仕事の中身について学習することよりも大学進学を当面の目的と
した進路指導が行われる傾向にあることが低い結果となった原因であると思われる。

⑩ 資格取得と職業のつながり

高校在学中に資格取得と職業のつながりに関する進路指導及び指導についてどのよう
に評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者は「大
変役に立った」(1, 14.3%)、「やや役に立った」(1, 14.3%)、「あまり役に立たなかつ
た」(1, 14.3%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」の回答者は「あまり役
に立たなかった」(9, 45.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回答者は「や
や役に立った」(4, 57.1%)であった。専門高校では資格取得に重点を置いた教育が行
われているので資格を生かした職業選択という考え方が根強い傾向がある。また、「経験
はない」(8, 23.5%)は、回答者は「ア」と「イ」のグループであった。当面の進路指
導の目的が上級学校への進学であることのあらわれと考えられる。

⑪ インターンシップ(現場実習を含む)

高校在学中に受けたインターンシップ(現場実習を含む)に関する進路指導及び指導に
ついてどのように評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」
の回答者は「経験はない」(4, 57.1%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」
の回答者は「経験はない」(12, 60.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回
答者は「経験はない」(3, 42.9%)であった。出身高等学校の種別の特徴としては、「ア」
と「イ」のグループで役に立ったという評価が高かった。また、「経験はない」(19,
55.9%)は、出身高等学校の全体にみられる傾向であり、今後の課題として取り組む必要
性がある。

⑫ 上級学校や職場等の見学

高校在学中に受けた上級学校や職場等の見学に関する進路指導及び指導についてどのよ
うに評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者は
「経験はない」(4, 57.1%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」の回答者は
「経験はない」(8, 40.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回答者は「あまり

役に立たなかった」(3, 42.9%)であった。また、「経験はない」(13, 38.2%)は、図表1出身高等学校の種別「ア」と「イ」のグループであった。とくに職場見学は将来の仕事に関心を持たせるための機会となるので、積極的に取り組む必要性があろう。

⑬卒業生の体験を聴く

高校在学中に受けた卒業生の体験を聴くことに関する進路指導及び指導についてどのように評価しているのかという質問である。「大学進学をする生徒がほとんど」の回答者は「経験はない」(4, 57.1%)、「大学、専門学校、就職と進路先がさまざま」の回答者は「経験はない」(8, 40.0%)、「就職が一番多く、一部進学者がいる」の回答者は「あまり役に立たなかった」(3, 42.9%)であった。出身高等学校の種別の特徴としては、図表1出身高等学校の種別「ア」と「イ」が役に立ったという評価が高かった。この方法は多くの高等学校で行われている進路指導の方法のひとつであり、先輩の経験談を聴くことは身近に進路について考える機会になるという点で有意義なことである。また、「経験はない」(11, 32.4%)は、今後の課題として取り組む必要性があろう。

4 まとめ

進路指導では、離職しても次の仕事をみつけて働くことができる能力を身につけさせるための教育、具体的には、自己理解能力、就職機会を見つける能力、就職するという意思決定能力、新しい仕事に移行するための学習能力を育成するプログラムを策定することが重要となる。今回のアンケート調査から、学生は高校時代のキャリア教育に関して役に立ったと評価している進路学習の内容は、進路に関する情報の入手方法とその利用の仕方、希望する進路の実現性に関する学習及び指導、社会人に必要なマナー等に関する学習及び指導である。これらは学生にとって進路決定に直接関わりを持っている内容であった。一方、将来の生き方や人生設計に関する学習及び指導、経済の動きを理解する学習及び指導、仕事の中身を理解する学習及び指導などはキャリア形成の重要課題であるにもかかわらず学生にとっては評価が低い進路学習の内容であった。今回の調査研究の成果を高大連携という視点から本学のキャリア支援教育プログラムの策定に生かしていきたいと思う。

注

- (1) 本研究に関する情報収集の目的で愛知県教育委員会高校教育課川口指導主事を訪問した際、普通高校におけるキャリア教育の課題について意見交換を行った。共通認識として教育委員会、学校、同窓会、地域社会との連携が大切であるとの共通認識を得た。
- (2) 戸田は、静岡県において「高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究(文部科学省委嘱事業)」(平成19年度から平成21年度までの3カ年)に委員長として携わった。

資料 (1)：アンケート調査票参照

高等学校在学中に受けた進路学習及び指導と評価についてのアンケート

- (1) あなたの性別 1. 男 2. 女
 (2) 出身高校はどれにあたりますか
 1. 大学進学をする生徒がほとんど 2. 大学進学、専門学校、就職と進路がさまざま
 3. 就職が多く、一部進学する生徒がいる
 (3) 高等学校在学中に受けた進路学習及び指導と評価 (該当する記号に○を付けてください。)

ア 大変役に立った イ やや役に立った ウ あまり役に立たなかった
 エ 役に立たなかった オ 経験はない

- | | | | | | |
|--------------------------|---|---|---|---|---|
| ① 進路選択の考え方や方法に関する学習及び指導 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ② 進路に関する情報の入手方法とその利用の仕方 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ③ 希望する進路の実現性に関する学習及び指導 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ④ 産業や職業の種類や内容に関する学習及び指導 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ⑤ 自分の個性や適性の理解に関する学習及び指導 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ⑥ 将来の生き方や人生設計に関する学習及び指導 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ⑦ 社会人に必要なマナー等に関する学習及び指導 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ⑧ 経済の動きを理解する学習及び指導 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ⑨ 仕事の中身を理解する学習及び指導 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ⑩ 資格取得と職業のつながりに関する学習及び指導 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ⑪ インターンシップ (現場実習等も含む) | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ⑫ 上級学校や職場等の見学 | ア | イ | ウ | エ | オ |
| ⑬ 卒業生の体験を聴く学習 | ア | イ | ウ | エ | オ |

あなたは、高等学校在学中に受けた進路学習及び指導について印象に残っていることは何ですか。自由にお書きください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

資料 (2) : アンケート集計表 (出身高等学校の種別によるクロス集計結果)

①進路選択の考え方や方法										グループA	グループB
		実数	合計	a	b	c	d	経験はない	不明	a+b	c+d
				大変役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった				
	全体	37	100.0	1	23	6	3	1	3	24	9
		%		2.9	67.6	17.6	8.8	2.9		☆70.59	26.47
出身高等学校	ア	大学進学をする生徒がほとんど	7	0	6	1	0	0	0	6	1
		%	100.0	0.0	85.7	14.3	0.0	0.0		85.71	14.29
	イ	大学、専門学校、就職とさまざま	20	0	14	3	2	1	0	14	5
		%	100.0	0.0	70.0	15.0	10.0	5.0		70.00	25.00
	ウ	就職がいちばん多く、一部進学	7	1	3	2	1	0	0	4	3
		%	100.0	14.3	42.9	28.6	14.3	0.0		57.14	42.86

②進路情報の入手方法										グループA	グループB
		実数	合計	a	b	c	d	経験はない	不明	a+b	c+d
				大変役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった				
	全体	37	100.0	6	17	9	1	1	3	23	10
		%		17.6	50.0	26.5	2.9	2.9		☆67.65	29.41
出身高等学校	ア	大学進学をする生徒がほとんど	7	3	2	2	0	0	0	5	2
		%	100.0	42.9	28.6	28.6	0.0	0.0		71.43	28.57
	イ	大学、専門学校、就職とさまざま	20	2	12	5	0	1	0	14	5
		%	100.0	10.0	60.0	25.0	0.0	5.0		70.00	25.00
	ウ	就職がいちばん多く、一部進学	7	1	3	2	1	0	0	4	3
		%	100.0	14.3	42.9	28.6	14.3	0.0		57.14	42.86

③希望する進路の実現性										グループA	グループB
		実数	合計	a	b	c	d	経験はない	不明	a+b	c+d
				大変役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった				
	全体	37	100.0	6	11	13	3	1	3	17	16
		%		17.6	32.4	38.2	8.8	2.9		☆50.00	★47.06
出身高等学校	ア	大学進学をする生徒がほとんど	7	2	3	1	1	0	0	5	2
		%	100.0	28.6	42.9	14.3	14.3	0.0		71.43	28.57
	イ	大学、専門学校、就職とさまざま	20	3	5	9	2	1	0	8	11
		%	100.0	15.0	25.0	45.0	10.0	5.0		40.00	55.00
	ウ	就職がいちばん多く、一部進学	7	1	3	3	0	0	0	4	3
		%	100.0	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0		57.14	42.86

④産業や職業の種類										グループA	グループB
		実数	合計	a	b	c	d	経験はない	不明	a+b	c+d
				大変役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった				
	全体	37	100.0	2	7	16	3	6	3	9	19
		%		5.9	20.6	47.1	8.8	17.6		26.47	★55.88
出身高等学校	ア	大学進学をする生徒がほとんど	7	1	2	2	0	2	0	3	2
		%	100.0	14.3	28.6	28.6	0.0	28.6		42.86	28.57
	イ	大学、専門学校、就職とさまざま	20	1	3	10	2	4	0	4	12
		%	100.0	5.0	15.0	50.0	10.0	20.0		20.00	60.00
	ウ	就職がいちばん多く、一部進学	7	0	2	4	1	0	0	2	5
		%	100.0	0.0	28.6	57.1	14.3	0.0		28.57	71.43

高等学校におけるキャリア教育の実態調査

調査名 [高等学校在学中に受けた進路学習及び指導と評価についてのアンケート]

⑤自分の個性や適性										グループA a+b	グループB c+d	
		実数	合計	a	b	c	d	経験は ない	不明			
				大変役に 立った	やや役に 立った	あまり役 に立たな かった	役に立た なかった					
出身 高等 学校	全体		37	6	10	8	5	5	3	16	13	
			%	100.0	17.6	29.4	23.5	14.7	14.7	47.06	38.24	
	ア	大学進学をする生徒が ほとんど	実数	7	2	1	2	0	2	0	3	2
			%	100.0	28.6	14.3	28.6	0.0	28.6	42.86	28.57	
	イ	大学、専門学校、就職 とさまざま	実数	20	1	8	5	4	2	0	9	9
			%	100.0	5.0	40.0	25.0	20.0	10.0	45.00	45.00	
	ウ	就職がいちばん多く、 一部進学	実数	7	3	1	1	1	1	0	4	2
			%	100.0	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	57.14	28.57	

⑥将来の生き方、人生設計										グループA a+b	グループB c+d	
		実数	合計	a	b	c	d	経験は ない	不明			
				大変役に 立った	やや役に 立った	あまり役 に立たな かった	役に立た なかった					
出身 高等 学校	全体		37	3	14	10	1	6	3	17	11	
			%	100.0	8.8	41.2	29.4	2.9	17.6	☆50.00	32.35	
	ア	大学進学をする生徒が ほとんど	実数	7	0	5	1	0	1	0	5	1
			%	100.0	0.0	71.4	14.3	0.0	14.3	71.43	14.29	
	イ	大学、専門学校、就職 とさまざま	実数	20	2	8	7	0	3	0	10	7
			%	100.0	10.0	40.0	35.0	0.0	15.0	50.00	35.00	
	ウ	就職がいちばん多く、 一部進学	実数	7	1	1	2	1	2	0	2	3
			%	100.0	14.3	14.3	28.6	14.3	28.6	28.57	42.86	

⑦社会人に必要なマナー										グループA a+b	グループB c+d	
		実数	合計	a	b	c	d	経験は ない	不明			
				大変役に 立った	やや役に 立った	あまり役 に立たな かった	役に立た なかった					
出身 高等 学校	全体		37	9	14	2	5	4	3	23	7	
			%	100.0	26.5	41.2	5.9	14.7	11.8	☆67.65	20.59	
	ア	大学進学をする生徒が ほとんど	実数	7	3	1	0	1	2	0	4	1
			%	100.0	42.9	14.3	0.0	14.3	28.6	57.14	14.29	
	イ	大学、専門学校、就職 とさまざま	実数	20	3	10	2	3	2	0	13	5
			%	100.0	15.0	50.0	10.0	15.0	10.0	65.00	25.00	
	ウ	就職がいちばん多く、 一部進学	実数	7	3	3	0	1	0	0	6	1
			%	100.0	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0	85.71	14.29	

⑧経済の動きを理解する										グループA a+b	グループB c+d	
		実数	合計	a	b	c	d	経験は ない	不明			
				大変役に 立った	やや役に 立った	あまり役 に立たな かった	役に立た なかった					
出身 高等 学校	全体		37	1	5	13	3	12	3	6	16	
			%	100.0	2.9	14.7	38.2	8.8	35.3	17.65	★47.06	
	ア	大学進学をする生徒が ほとんど	実数	7	0	2	2	0	3	0	2	2
			%	100.0	0.0	28.6	28.6	0.0	42.9	28.57	28.57	
	イ	大学、専門学校、就職 とさまざま	実数	20	1	2	8	2	7	0	3	10
			%	100.0	5.0	10.0	40.0	10.0	35.0	15.00	50.00	
	ウ	就職がいちばん多く、 一部進学	実数	7	0	1	3	1	2	0	1	4
			%	100.0	0.0	14.3	42.9	14.3	28.6	14.29	57.14	

⑨仕事の中身を理解する										グループA a+b	グループB c+d	
		実数	合計	a	b	c	d	経験は ない	不明			
				大変役に 立った	やや役に 立った	あまり役 に立たな かった	役に立た なかった					
出身 高等 学校	全体		37	0	10	11	3	10	3	10	14	
			%	100.0	0.0	29.4	32.4	8.8	29.4	29.41	★41.18	
	ア	大学進学をする生徒が ほとんど	実数	7	0	3	1	1	2	0	3	2
			%	100.0	0.0	42.9	14.3	14.3	28.6	42.86	28.57	
	イ	大学、専門学校、就職 とさまざま	実数	20	0	6	7	1	6	0	6	8
			%	100.0	0.0	30.0	35.0	5.0	30.0	30.00	40.00	
	ウ	就職がいちばん多く、 一部進学	実数	7	0	1	3	1	2	0	1	4
			%	100.0	0.0	14.3	42.9	14.3	28.6	14.29	57.14	

浜松学院大学研究論集

調査名 [高等学校在学中に受けた進路学習及び指導と評価についてのアンケート]

⑩資格取得と職業のつながり												
			合計	a	b	c	d	経験はない	不明	グループA a+b	グループB c+d	
				大変役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった					
	全体	実数	37	3	10	11	2	8	3	13	13	
		%	100.0	8.8	29.4	32.4	5.9	23.5		38.24	38.24	
出身 高等 学校	ア	大学進学をする生徒がほとんど	実数	7	1	1	1	0	4	0	2	1
			%	100.0	14.3	14.3	14.3	0.0	57.1		28.57	14.29
	イ	大学、専門学校、就職とさまざま	実数	20	1	5	9	1	4	0	6	10
			%	100.0	5.0	25.0	45.0	5.0	20.0		30.00	50.00
	ウ	就職がいちばん多く、一部進学	実数	7	1	4	1	1	0	0	5	2
			%	100.0	14.3	57.1	14.3	14.3	0.0		71.43	28.57

⑪インターシップ（現場実習も含む）												
			合計	a	b	c	d	経験はない	不明	グループA a+b	グループB c+d	
				大変役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった					
	全体	実数	37	4	3	4	4	19	3	7	8	
		%	100.0	11.8	8.8	11.8	11.8	55.9		20.59	23.53	
出身 高等 学校	ア	大学進学をする生徒がほとんど	実数	7	1	2	0	0	4	0	3	0
			%	100.0	14.3	28.6	0.0	0.0	57.1		42.86	0.00
	イ	大学、専門学校、就職とさまざま	実数	20	2	0	2	4	12	0	2	6
			%	100.0	10.0	0.0	10.0	20.0	60.0		10.00	30.00
	ウ	就職がいちばん多く、一部進学	実数	7	1	1	2	0	3	0	2	2
			%	100.0	14.3	14.3	28.6	0.0	42.9		28.57	28.57

⑫上級学校や職場等の見学												
			合計	a	b	c	d	経験はない	不明	グループA a+b	グループB c+d	
				大変役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった					
	全体	実数	37	3	8	6	4	13	3	11	10	
		%	100.0	8.8	23.5	17.6	11.8	38.2		32.35	29.41	
出身 高等 学校	ア	大学進学をする生徒がほとんど	実数	7	1	1	1	0	4	0	2	1
			%	100.0	14.3	14.3	14.3	0.0	57.1		28.57	14.29
	イ	大学、専門学校、就職とさまざま	実数	20	1	5	2	4	8	0	6	6
			%	100.0	5.0	25.0	10.0	20.0	40.0		30.00	30.00
	ウ	就職がいちばん多く、一部進学	実数	7	1	2	3	0	1	0	3	3
			%	100.0	14.3	28.6	42.9	0.0	14.3		42.86	42.86

⑬卒業生の体験を聴く												
			合計	a	b	c	d	経験はない	不明	グループA a+b	グループB c+d	
				大変役に立った	やや役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった					
	全体	実数	37	6	9	7	1	11	3	15	8	
		%	100.0	17.6	26.5	20.6	2.9	32.4		44.12	23.53	
出身 高等 学校	ア	大学進学をする生徒がほとんど	実数	7	0	2	1	1	3	0	2	2
			%	100.0	0.0	28.6	14.3	14.3	42.9		28.57	28.57
	イ	大学、専門学校、就職とさまざま	実数	20	4	5	4	0	7	0	9	4
			%	100.0	20.0	25.0	20.0	0.0	35.0		45.00	20.00
	ウ	就職がいちばん多く、一部進学	実数	7	2	2	2	0	1	0	4	2
			%	100.0	28.6	28.6	28.6	0.0	14.3		57.14	28.57

回答 a + 回答 b の全体の割合が高い項目については「☆」で示した。
 回答 c + 回答 d の全体の割合が高い項目については「★」で示した。